

国際水協会 (IWA)

世界会議・展示会

東京で開催



よしむら かずなり
吉村 和就

グローバルウォーターシキバン代表
国連テクニカルアドバイザー
水の安全保障戦略機構技術普及委員長
日本水フォーラム理事

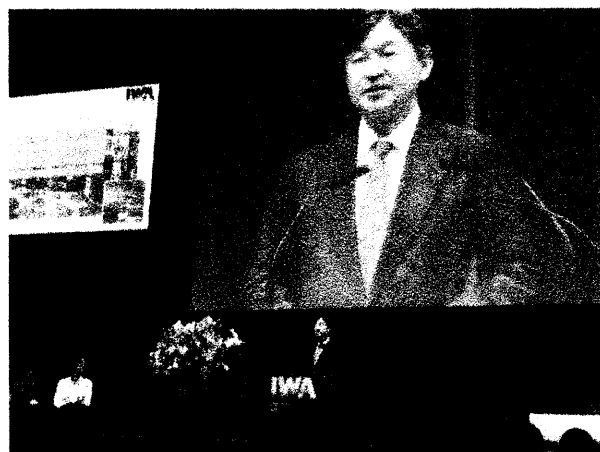
国際水協会 (IWA) による水に関する「世界会議・展示会」が九月十六日から五日間に渡り東京ビックサイトで開催された。今回で第十一回を数える IWA 世界会議は日本で初めての開催で「水の未来を形成する」をメインテーマに「レジリエンス (強靱性) やサステイナビリティ (持続可能性)、イノベーション (技術革新)」といったサブテーマが設定され、九題の基調講演や約五十のワークショップ、約二百七十の技術セッションが繰り広げられた。同会議には世界百カ国以上から水の専門家や展示会参加者を含め約一万人の参加があり IWA 史上、過去最大規模となった。

1. IWA 開会式

ダイアン・ダラス IWA 会長は、この会議が「世界が抱える最大の課題の一つである水に対する対策を考えて、また世界の水リーダーとのネットワークを作る最高の機会である」と紹介、さらに「水は持続可能な社会目標の中心的な課題であり、世界はその対策を必要としている。様々な大陸文化を有する IWA 会員は分野を横断し水問題解決にかかわることができる」と呼びかけた。開催都市を代表し、小池百合子東京都知事は「東京開催を歓迎する、東京都は上下水道の強靱性を高める努力を続けてきた。多くの困難の中で我々が培った技術と経験は、かつての東京と同じように水の課題を抱える国や地域にとり共用できるだろう。ここでの成果が世界の水問題解決に寄与することを期待する」と述べた。

・皇太子殿下のお言葉

開会式には皇太子ご夫妻がご臨席された。皇太子殿下は英語で、さきの北海道胆振東部地震での被害者に哀悼の意を表されたのち、お言葉を述べられた。世界には安全な水や適切な衛生施設にアクセスできない人々が多数存在すること。国連で採択された「持続可能な開発目標」において水の問題が貧困やジェンダーなど他の目



皇太子殿下のご講演（筆者撮影）

標に密接に関連し、横断的な課題として捉えられていることを説明。さらに「私はこれまで世界水フォーラムや国連の水と災害に関する特別会合にて講演を通じて人と水との関わり合いについて思いをめぐらせてきました。（中略）この会合が世界の水問題の解決に向け活発な論議が行われるとともに、水を通じて人類の繁栄、幸福の実現に向けて関係者が継続して力を合わせていくことを願います」と期待された。筆者は第三回世界水フォーラム（〇三年、日本）、第五回世界水フォーラム（〇九年、トルコ）では会場で直接、殿下の基調講演を拝聴し、第六回（二二年、フランス）、第七回（一五年、韓国）ではビデオメッセージを拝聴したが、殿下の水に対する造詣の深さと、国際社会に水の大切を語りかける姿は、世界の人々に感動を与えてきたが、来年五月に新天皇に即位される殿下にとって最後の水の国際会議への出席となった。（過去の講演内容は宮内庁ホームページに英文および日本文が掲載されている）

二．基調講演

（一）「災害リスク低減に向けた政策のあり方」……小池ICARMセンター長
 ユネスコ後援機関・水災害・リスクマネージメント国際センター（ICARM）の小池俊雄センター長は「リスクの同定、削減、管理の各分野における最近の動向」と題し、地球温暖化と気候変動のメカニズム、災害リスクの低減に向けた政策のあり方について、その知見を披露。気候変動には総合的かつ体系的な政策により災害リスクを減らし、持続可能な国土のレジリエンスを構築すべき。さらに適切な投資で科学技術を開発すべきであると締めくくった。

（二）「心・技・体で健全な水循環都市の構築」……小池都知事

小池百合子東京都知事は「サステイナブルな水循環都市の構築に向けて」と題し、水に悩まされた江戸時代から世界有数の大都市に成長した東京の歴史に触れ「水に関して様々な制約を克服するために、上下水道の技術を磨き、今や高品質な水道、快適な水辺空間を提供できる世界に誇れる都市になった。健全な水循環の実現には、環境問題や災害リスクの課題解決が不可欠であるとし、その視点として武士道に由来する「心・mind、技・skill、体・body」という概念を用いた持論を展開。スマートウォーターシステムの構築など常に新技術を取り入れ進化することで都市の水問題解

決に、東京より情報発信していきたいとまとめつつ、会場にいる来場者全員と「心・技・体」を唱和し基調講演を締めくくった。会場から素晴らしいパフォーマンスに大きな拍手が湧き起った。

三 「イノベーションの普及は大きな課題」

オランダ・デルフト工科大学マーク・バン・ルースドレヒト教授と、米国ニューハブ社CEOステイール・マーシー氏が登壇。ルースドレヒト教授は「ツールや技術の保有だけではなく、市場や経済の進展と合わせた連携が重要だ」、と述べ「研究者は開発にしか興味がない、これはダメで普及のためには一連のビジネスモデル構築が必須」と強調した。マーシーCEOは「世界のGDPが著しく発展を遂げた背景には、特許制度による技術者の意欲の高まりがあった」とし「イノベーションをけん引する外部的な動機付けが必要」と述べ、その技術も陳腐化しない技術、二十年程度使える技術、五年程で陳腐化する技術と分類し開発時から寿命を意識すべきと強調した。

三 展示会

IWA世界会議に併設された展示会には、国内外から約二百五十団体、ジャパン・パビリオンには九十一団体が参加する盛況ぶりであった。オープニングセレモニーでは小池都知事が「日本が誇る数々の技術が展示されている。交流の場として、また今後のビジネスチャンスの場として水分野をけん引する活力になるよう成果に期待している」と挨拶。産業界を代表して日本水道工業団体連合会の宮崎正信専務理事が「この展示会にはオールジャパンの世界最高水準の水に関わる技術と経験、政策が展示されている。地球上の水問題を解決し、SDGsを達成するためにも日本企業が一体となり、世界の要請に応えていきたい」と期待を述べた。展示会場では、多くの若手社員が動員され、海外訪問客に熱心に説明を行っていた。彼らが管理職になる頃には、水ビジネスの海外売り上げ比率が飛躍的に高まっていることに期待したい。

四 閉会式……東京宣言（東京イニシアティブ）が採択

閉会式では世界会議・展示会の成果が総括された。カラ・IWA専務理事は「東京イニシアティブ」としてIWAが主体的な取り組みとして①下水道によらない衛生管理に関する新しい研究グループの創設、②イノベーションを促進する新しいプラットホームの構築、③水管理のデジタル化、④政策立案を支援する新しい行動の推進などの採択を表明した。次回（二年後）のIWA世界会議はデンマークのコペンハーゲン市で開催される。